

先日、米国の幼稚園の指導者として有名なキャザリン・リード女史がお茶の水の附属幼稚園に来訪された。女史は「ナースリースクールの教育」という名著の著者でこの書物は最近、スウェーデン語、デンマーク語、イタリー語、ヘブライ語に翻訳されたとのことである。旅行の途中、日本に僅かの期間立ち寄り、日本の幼稚園をぜひ見たいと願ってお茶の水の幼稚園に立ち寄られたのである。私もはここで子どもたちがそれぞれに遊んでいるのを見ながら共に語ることができて愉快であった。第一にここで女史の同感されたのは子どもたちが砂場で熱心に遊んでいる状況であった。お茶の水の幼稚園には砂場の縁に水道の蛇口がつけてある。子どもたちはそこから自分の手でバケツの水をくんで川をつくったり、おだんごをこねたりして、遊びは次々に発展するのである。女史の示唆によって私もあらためて気がついたことは、子どもは砂と水を使うことによって精神の緊張から解放されるということであった。幼稚園で精神的緊張が解放されることによって、子どもは建設的な活動に向かうことができる。リード女史のことをかきならば、「最近は何問題児の治療教育で砂や水を自由

に使わせて不満の解消を試みる。正常児の幼稚園で子どもたちが問題行動を起すようになるまで腕をこまぬいて待っていてよからうか。正常児の幼稚園は何問題児なることを予防するという任務をも帯びている。それなのにたくさんの幼稚園で、三十分も砂遊びがづくくと、さあ、これから始まりですよ、と言って砂場の遊びを中断させて、部屋の中に入ってしまふのだ。」この一つのことをとつても、私もは幼児教育の重要な面が一般に理解されていないことを感ずる。保育者自身ですらも、幼稚園では「何かを」教え何かを訓戒しなければ教育にならないような気がしている。再びリード女史の言をかきならば、世界が不安の中におかれていたために、おとなの不安が幼児に対する圧力となつて、この時代にあらわれてくるのである。しかし、たしかに、私も幼児教育にたずさわるものには、このような不安や圧力と戦かわねばならない。そして幼児を緊張と不安から解放し、心から満足のゆく生活をさせて、幼児に自信を与え、その能力を十分に發揮させることを真剣に考えねばならない。現代の幼児教育、すなわち幼児保育の当面するもつとも重要な課題である。

(T)

幼児の教育 第六十一巻 第十二号

十二月号 © 定価六〇円

昭和三十七年十一月二十五日 印刷
昭和三十七年十二月 一日 発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行者 日本 幼稚園 協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌ご購入についてのご注文は発売所
所フレイベル館にお願いいたします。